

オンライン授業のためのTips

04_リアルタイム遠隔授業の総論

オンライン授業の実施環境の準備

甲南大学教育学習支援センター



はじめに

- この資料では、オンライン授業に関する事柄を網羅的にまとめています。
 - 段階的に作成します
 - 00～：オンライン授業に係る総論
 - 10～：オンライン授業教材作成について
 - 20～：MyKONANの授業支援機能について
 - 30～：Web会議システム「Zoom」の利用について
 - 当初作成したTipsのVol.1から3までの内容は、上記内容を網羅的に紹介しておりましたが、授業の進行とともに、個別の技術的なご質問等も増えてきたため、個々の機能別に再編しました。
- 簡易的ではありますが、その際に必要なツールなどの活用例を、実際に甲南大学で利用可能なものに絞り、掲載しています
 - 掲載の範囲であれば、完全とは言えないまでも、大学内で何らかのサポートができます
- もちろん、インターネット上には様々な情報が出ており、有益なものが沢山あります。それを独自に活用なさを制限するものではありません

04_リアルタイム遠隔授業の総論の 概要

見つかる、きみのなかの無限大。



KONAN INFINITY

- 「リアルタイム遠隔授業」方式の実施方法
 - 準備
 - ツール
- 「リアルタイム遠隔授業」実施で想定される課題
 - 出欠管理
 - いわゆる「荒らし」行為
 - 学生が使うツールのバッテリー

「リアルタイム遠隔授業」方式の 実施方法①

見つかる、きみのなかの無限大。



KONAN INFINITY

- 準備は「インターネット授業」での教材作成と全く同じ
- ツール
 - Skype for Business、Teams
 - 1対1の会話や少人数でのミーティングをする際には便利だが、基本的には参加者登録が必要で、受講者数が多い授業等で使用するには不向き
 - 今回のTips集としては下記の「Zoom」について説明する
 - Webテレビ会議システム「Zoom」
 - 主催者がアカウント登録していれば、そのほかの参加者のアカウント登録が必須ではない
 - 現状、2020年4月30日までは、同時参加者500名まで時間制限なしで使用可能
 - 2020年5月1日以降、学校法人甲南学園としてZoomの年間使用ライセンスを契約、契約後、基本は同時参加者300名まで時間制限なしに変更（500名・1000名まではオプション扱い、受講者数が多い授業担当者は応相談）
 - 教育学習支援センターまで申請要（別途Tips参照）
 - PCであれば、専用ソフトがなくても使える
 - タブレットやスマホはアプリが必要
 - 初めて使うときにアプリをインストールするガイドがある
 - 収録機能がある
- 留意点
 - 「参加者」＝「学生」がアクセスできるインターネット環境や保有する端末に依存する
 - 「使用できない」＝「授業に参加できない」可能性があり、そういったケースの対策が必要

「リアルタイム遠隔授業」方式の 実施方法②

見つかる、きみのなかの無限大。



KONAN INFINITY

- 「リアルタイム遠隔授業」に使う教室
= Zoomミーティングの設定が必要
 - 授業で利用する場合は、教育学習支援センターに連絡
 - 大学の教室のようなイメージでミーティングの“開催場所”を設定
 - 先生個々のアカウントでミーティングを設定
 - 教育学習支援センターに登録したメールアドレスを連絡することで、2020年5月以降、参加者300名まで、時間無制限扱いになる
 - 参加者が300名を超える場合も要相談
 - 時間割等に基づき、Zoomミーティングを設定後、アクセスに必要な情報を伝達
 - クライアントアプリがない場合はアクセスに必要な「URL」
 - クライアントアプリがある場合は「ミーティングID」
 - ミーティングに入るための「パスワード」
 - ミーティングの全機能を使うための「ホストキー」
 - MyKONANのコース管理などで、
上記のうち「ホストキー」以外の
情報を学生と共有

「リアルタイム遠隔授業」実施で想定される課題①

見つかる、きみのなかの無限大。



KONAN INFINITY

- 「Zoom」をはじめとした、コミュニケーションツールだけでは出席管理できない
 - 運用でカバーできるが、幾分不確実
 - MyKONANの課題やテスト、クリッカーといった機能と合わせて使うことで、学生の行動を把握できる
- いわゆる「荒らし」行為の可能性がある
 - コミュニケーションツールはニックネームなどで参加できるため、匿名性があり、それを逆手に取った心無い行為の可能性を排除できない
 - 通常の授業で妨害行為を行うことと行為そのものは同質だが、いわゆる犯人が特定できず、全体への注意しかできない
 - 場合によっては、加害者と被害者の関係が起こる可能性もあり、被害者へのケアや名誉回復への配慮が必要な場合もある

「リアルタイム遠隔授業」実施で想定される課題②

- 意外とネックになるかも・・・
 - バッテリーの問題：約60分接続すると
 - 2年前に買ったiPhoneX⇒25%程度消費
 - 2年前に買ったiPhone8⇒35%程度消費
 - 1年半前に買ったiPadmini⇒25%程度消費
 - 2年前にバッテリーを交換したiPhone6⇒40%程度消費
 - いずれもiOSのバッテリーの状態確認では90%以上
 - バッテリーの問題は、学生のスマホ購入時期によって大きく影響するかもしれない
 - スマホは高額なので、高頻度での買い換えは難しい
 - 今回、基本的に自宅での使用率が高いと考えられるので、電源につなぐよう一言添えると親切かもしれない



各種ご相談等は
教育学習支援センターまで
お寄せください

Mail: lucks@adm.konan-u.ac.jp

[Tel:078-386-4312](tel:078-386-4312) (内線 : 5851)